

# 業務部速報



No. 137

発行 26. 3. 5

JR東労組 業務部

申17号 2026年度賃金引き上げ等に関する申し入れ **26春闘**

申18号 2026年度夏季手当等に関する申し入れ **第2回団体交渉を行う！①**

各地本、青年協議会で春闘集会を開催！

本部に多くの激励が届く！

第1回交渉以降に行っているアンケート **10,000件** を優に超える！

過去最高の営業利益をつくり出した職場の努力に報いるべきだ！

●これまで過去最高であった2018年第3四半期決算の1兆6001億円を約300億円上回り、過去最高の収益である。**過去最高の営業収益を、ペアや夏季手当の考慮要素として見るべきだ。**

●特に夏季手当の重要な判断要素になるが、営業利益は2786億円で、四半期純利益は1946億円。対前年147億円も増加している。この**大幅増は職場の努力によって成し遂げられたものだ。**

■職場の取り組みが現れたものが決算の数字である。数字は事実。収益は着実に積み上がっている。しかし費用も影響を与えるため全体のバランスを見ていく必要がある。**営業利益だけを見るのではなく、様々な要素を踏まえて判断していく。**

■様々、職場一丸となって取り組んできた成果である。

●今年度の**年末年始輸送は昨年比105%で過去最高**。2026年1月の鉄道営業収入の定期は対前年102.7%、定期外は対前年106.5%、合計**105.6%と絶好調**。2月の鉄道営業収入の状況はどうか。計画を上回るのか。

●**年末年始は過去最高、1月、2月も計画を超える絶好調**。好材料として判断の材料にするべきだ。

●インバウンドは目標の520億円に届くのか。

●現時点においては**過去最高のインバウンド収入**ではないか。

●キュンパスの状況はどうか。

■**年末年始輸送は過去最高**であり、1月は想定を若干上回っている。定期券は出社回帰となっているが、コロナ前より85%くらいである。**2月は、定期251億円で対前年105.7%、定期外584億円で対前年107.4%、合計1436億円で対前年105.9%**。定期は出社回帰が進んでいるがコロナ前より85%程度。計画を上回るが、インバウンドは計画には届いていない。

■**情勢含めて検討していきたい。**

■現状のペースでは年間計画達成は難しいと考える。

■昨年に比べて順調に当社を利用してもらっている。特にスノーレジャーの訴求もしているが、**計画を若干下回っている。**

■**対前年を上回る実績**である。

●今年度計画は、上方修正されて、連結での営業収益は3兆580億円で過去最高、運輸事業も2兆310億円となり過去2番目に高い水準であることでよいか。

●今年度計画の**鉄道運輸収入は、コロナ前の2019年と比べて約98%まで回復したことは、職場の努力があってこそである。**

■その通りだ。

■社員の皆さんの取り組みがあってこそである。一方、費用として資材価格などが増えていく。全体のバランスを見て検討していきたい。

②に続く